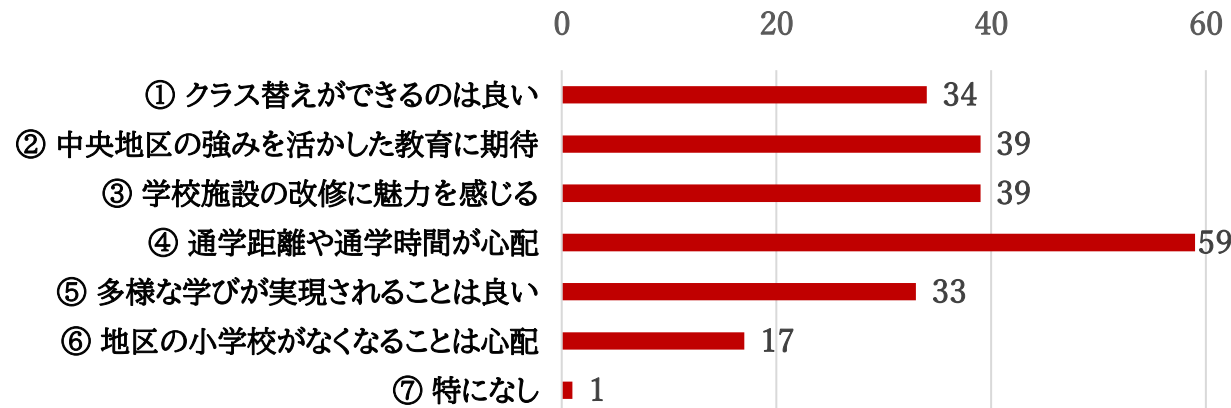


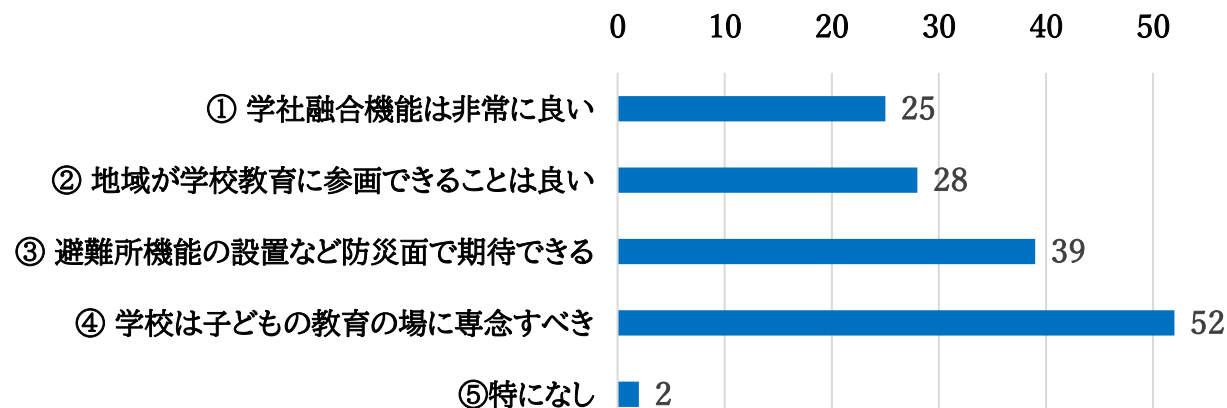
1 アンケート調査の結果 【子育て世代】

(1) 学校再編に期待すること、気になることはありますか。(人)



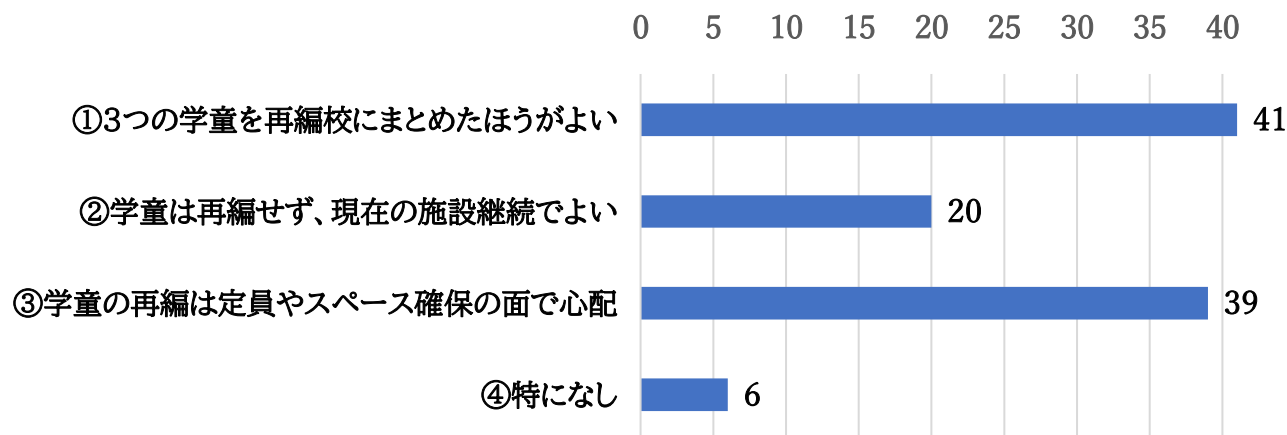
- いじめ等のトラブルがあっても、クラス替えがあれば新たな学級で人間関係をやり直せる。
- 中央地区の特徴を生かした学校像は魅力的であり、開校時に児童数が維持できれば再編した方が良い。
- 学習時間が減少するのはどうか、不登校に特化せず、レベルの高い教育を提供するべき。
- 学びの多様な学校は従来の小学校と違う所があるので中学校に入学した際、違和感を感じないか不安。
- 現在の学校も非常に良い環境なので、今の良さがなくなるの心配。

(2) 学校施設に学社融合機能をもたせること、地域が学校教育に参画することについてどのように思いますか。(人)



- 地域や外部の身元がしっかりしている方の指導は歓迎だが、誰もが学校内に容易に出入りできるのは防犯上、避けるべきでは。
- 地域の方と積極的に交流できるのは良いことだが、子どもの安全面が特に不安。子どもの安全とセキュリティを担保した上での活用を強く求める。
- 子どもや教職員にとってリスクが心配なので、特に校舎内については段階的な開放にしてほしい。開放するのであれば学校施設を使った習い事などができるようにしてほしい。
- 地域との交流は子どもにとって良い影響が期待される。日頃、家庭では広い世代の人々と接する機会が少ないので良いこと。

(3) 放課後児童クラブは、学校再編に伴い、どのようにしたら良いと思いますか。(人)



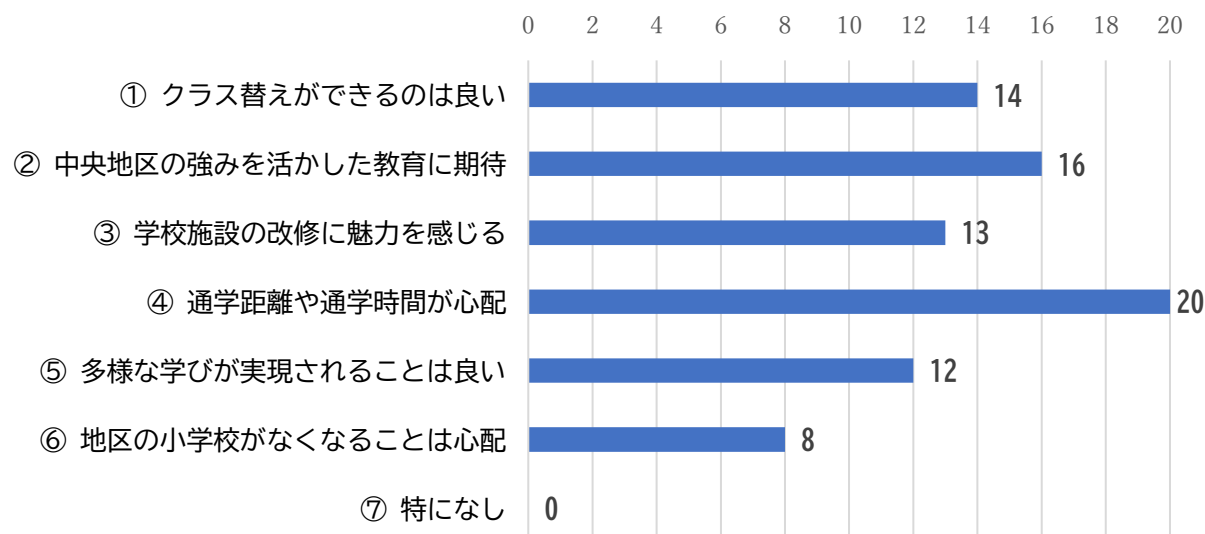
- 学童を1カ所にまとめれば、子どもが移動しなくても良いのでありがたい。安全面も確保できる。
- 抽選で落ちる人もいるので、できるだけ希望者全員が入所できるように登録人数の枠を増やしてほしい。
- 学校の再編と併せて学童も再編した方がよいが、十分な駐車場も確保してほしい。
- 現在のように学校の中、もしくは学校の近隣に学童施設があれば保護者としては安心。
- 学童3施設の経営は民間のため、学童再編について3施設間で意見交換の場を設定した方がよい。

(4) 学校再編に関するご意見(自由記述)

※内容が重複している意見はまとめて記述してあります。

- 再編校の候補地を公開してほしい。再編スケジュールが気になる。
- 子どもたちはもちろんのこと、子育て中のPTAや地域の方々にとって利用しやすく、魅力あるものに生まれ変われば良い。
- 再編することによりスクールバス等の運行があるのか、これから入学する弟妹もいるため、早く知りたい。
- 保護者が一番求めるのは「子どもたちが安心して過ごせる場」だということを一番に考えてほしい。
- 学校の再編は子どもを中心に考えるべき、地域活性化を優先することは避けたい。
- 不登校特例校をモデルにすることが検討されているようだが反対。学びの時間が減ることにつながりかねず、子どもたちの教育にとって本当に良いことなのか。
- 学校の再編に時間がかかりすぎている。再編前に我が子は卒業を迎えそうだが、その間、学校の老朽化(特にプールや体育館)の修繕が心配。
- 学校再編のような大きな取組では、賛成・反対の意見が分かれるのは当然。各地区全員が納得する結論を待っているは何も決められない。必要な意見を十分に聞いた上で、最終的には市がリーダーシップを発揮し、責任を持ってスピード感のある決断をしていただきたい。
- 再編に10年かかり、児童数が結局1学年1クラスにしかならないのは避けたい。市全体の再編が必要。
- 学校施設はリフォームするのでしょうか。施設の老朽化が不安なので早期実現を期待します。
- 児童数が減り、一般的な学校生活を送ることに支障が出てきていると感じる。たくさんの友達と関わり、時には競いながら、子どもたちが成長できる学校であってほしい。再編を反対する大人が多いと聞くが、子どもファーストで早急に再編を進めてほしい。
- 中学への進学はどうなるのか、6年生時の友達関係を維持できる学区編成とし、中1ギャップに配慮を。
- 中央地区には、地域の人や中高生、大学生等も使える学びの場をつくり、使用できればいいのでは。
- 自宅近隣のバス停から福島交通のバスで通学できれば経済の相乗効果もあるのではないかと。

(1) 学校再編に期待することや気になることはありますか。(町会数)



- 学校再編は、児童の通学距離や通学時間を最優先に考慮してほしい。
- 市で責任を持って早期に進めてほしい。
- 再編後の児童数増により、教育の質の低下や一人一人へのきめ細やかな支援ができるか不安。
- 学区の再編が必要、中1ギャップの解消に配慮を。
- 中央地区の3校で積み重ねてきたすばらしい教育成果を再編後の学校でさらに発展させてほしい。
- 目指す2つの学校像のイメージが湧かない、小学校は基礎学力をしっかり学ばせてほしい。

(2) 学校施設に学社融合機能をもたせること、地域が学校教育に参画することをどう思いますか。(町会数)



- 地域が日常的に学校へ関わることは地域全体で子どもを育む環境ができ、保護者や地域との信頼関係が築かれ、学校への理解が深まる。
- 施設開放は、先生方の貴重な時間を使うことになるのでは。学校現場の意識改革も必要では。
- 学社融合機能は、市民センターの活用で良いのではないか。自由な出入りは防犯面が心配。
- 学校施設は、地域の共用施設として、市都市計画ランドデザインと連動した検討を。

(3) 学校再編に伴い、学童クラブはどのようにしたらよいと思いますか。(町会数)



- 学童クラブの重要性は増しており、児童や保護者の安全安心を第一に考え、ある程度のスペースが必要。
- 学童は民間で運営しているので、各運営団体が判断すれば良いのではないかと。
- 学童クラブは家庭との距離が近くなければならないのではないかと。学童クラブ数を増やすことも検討を。

(4) 学校再編に関するご意見（自由記述）

※内容が重複している意見はまとめて記述してあります。

- これから入学する子どもの親の意見を十分に尊重してほしい。
- 学校再編は教育環境の充実につながるため大変期待できる。
- 再編される学校に魅力を感じ、移転してまでも通学させたいと思う様な取組を期待。
- 通学距離が多少長くなっても、新しい立派な校舎があれば多くの児童が集まるのではないかと。
- 長距離通学となる児童ができる限り少なくなるよう、通学区域の設定や再編校の設置場所について十分な検討を。再編後の跡地利用も含めて検討を。
- 3校の再編設置場所を決めるのが最優先。スクールバスの運行についても決めてほしい。
- 長距離通学となる児童ができる限り少なくなるよう配慮し、児童が無理なく安全に通学できる体制を。
- 少人数教育の利点について再考を。近隣に保育所、幼稚園、中学校、高等学校があることが望ましい。
- 附属小学校は設備や教員が揃っていること、幼小中の一貫教育である点が魅力。建設予定の小学校は、附属小学校以上の魅力ある施設、教員が揃った学校になれば距離等は気にせず入学させるのではないかと。
- 今後も少子化が進むことから3校のみの再編でクラス替えできる児童数が確保できるか疑問、広域での再編が必要では。児童数の推移に加え、居住分布や保護者の就労実態等も踏まえた学区の再編を。
- 中1ギャップ解消への配慮として、中学校進学時の指定校や通学区域の検討を。
- 小学校から中学校まで一貫した教育を受けられることが子どもたちに郷土愛を醸成するには不可欠。
- 再編校には防災機能の考慮を。再編に関するきめ細やかな情報提供を。
- 学校を支えるサポート体制が必要。教職員の仕事量の再考により、先生方の心身の健康が児童の健全な学校生活に直結する。
- 学校再編は、地域コミュニティへの十分な配慮の上、子どもと地域の双方にとって良い学校づくりを。
- 学校は地域活動の中心であり、将来の利活用を含め、まちづくりと一緒に考えてほしい。市に全てお任せするので、良い計画を作成してほしい。

3 対話集会の意見とアンケート調査を受けて福島市教育委員会として策定する再編計画の方向性

(1) 3校を小学校1校（先導的な学びを推進する学校）に再編し、中央地区に設置する方向で検討します

現在の学校	再編後の学校（学校の特徴）	
福島第一小学校	   3校を小学校1校に再編 （「先導的な学びを推進する学校」）	・子ども自身の「やってみたい」が起点となる授業 ・中央地区全体を教材にした探究学習 ・学術機関等と連携した中央地区ならではの ICT 教育 ・多世代が交流できる新しい形の学校施設 ・地域や保護者が学校教育に参画する新しい形の学校
福島第四小学校		
清明小学校		

再編された小学校（「先導的な学びを推進する学校」）では、中央地区全体を学びのフィールドにした探究学習等を中心にした教育課程により、質の高い教育を実現します。

また、小学校から適正規模の集団（1学年2学級以上）で過ごすことで、中学校進学時にもスムーズに集団に適応できるようにします。

さらに、再編校（「先導的な学びを推進する学校」）の設置場所については、通学距離を考慮して選定します。

(2) 新たに、市内全域を学区とした「多様な学びを実現する学校」を中央地区に設置する方向で検討します

通学区域・通学対象	新たに設置する学校（特徴）	
市内全域 (不登校傾向の児童生徒)	 多様な学びを実現する学校を設置 (小学校および中学校等)	文科大臣が認定する「学びの多様化学校」※ ・学校らしくない学校、いわゆる不登校特例校 ・ゆとりのある登校時間や時間割 ・児童生徒一人一人のニーズに寄り添った教育課程 ・リラックスできる教室や施設が整備された学校 ・「好き」や「興味」を中心にした探究学習 ・地域との関わりを重視した教育活動 ・児童生徒のペースに合わせた学び直しができる学校

「学びの多様化学校」は、子どものペースに学校が合わせる柔軟な工夫が特徴であることから、少人数学級によるきめ細やかな指導が求められます。また、全国の実践例や、県内に設置されている学びの多様化学校（棚倉中学校）の視察において、通常の学校や本校から離れた場所に設置されていることで教育効果が認められていることが分かっています。

以上のことから、「先導的な学びを推進する学校」と「多様な学びを実現する学校」は、中央地区にそれぞれ別な場所に設置する方向で検討します。

※ 学びの多様化学校： 文部科学大臣が認定する学校で旧不登校特例校。不登校傾向にある児童生徒を対象とし、一人ひとりの状態に合わせて年間の授業時間を減らしたり、体験学習を多く取り入れたりした特別な教育課程を編成できる点が特徴。少人数指導や専門スタッフによるケアを充実させることにより、児童生徒が無理のないペースで安心して学べる環境のもと、個性を尊重し、自分らしい学びと成長を支える学校。

(3) 安全・安心な通学環境を整備します

交通量の多い国道が走っている中央地区において、子どもたちの登下校の安全・安心の確保は最重要課題であり、通学距離や通学時間が心配であるという声もあるため、新しい学校の設置場所の選定にあたっては、その点を十分に考慮します。また、学校はもちろんのこと、保護者の皆様や関係団体（警察、交通安全協会、見守りボランティア等）と緊密に連携しながら通学路の安全確保に努め、保護者が安心して通学させられるようにします。

さらに、中央地区は、公共交通機関である市内循環バス等、福島駅東口に集約通過する路線バスルートが設定されているなど、市内で最も公共交通機関の整備が充実しているエリアのため、再編校の児童が登下校時に有効利用する方向で検討します。

(4) 通学区域は子どもを第一に、保護者・児童生徒の選択肢拡大の方向で検討します

「先導的な学びを推進する学校」は、再編により、現在より通学距離が延伸する場合は、保護者・児童の選択肢拡大のため、再編校ではなく隣接学区の学校への通学も選択できるよう、また、再編後も適正規模（1学年2学級以上）が維持できる児童数を確保できるような通学区域の設定を検討します。

さらに、再編校から中学校に進学する際は、6学年時の友達関係の維持に配慮し、隣接する中学校に進学できる等、現在の基本学区の設定を弾力化することも併せて検討します。なお、「学びの多様化学校」は、全市を対象とした自由学区とします。

(5) 再編後の学校施設について

再編後の学校施設については、「先導的な学びを推進する学校」を設置し、「多様な学びを実現する学校」を改修する方向で検討します。

また、児童、教職員の安全を第一に、防犯面を最大限に配慮した上で、保護者や地域住民の学校施設の活用や地域住民の学校教育への参画を促すような、学社融合機能※をもたせる方向で検討します。

※ **学社融合機能**：学校の図書館や家庭科室等を、授業に支障のない範囲で、児童の安全面や防犯面に配慮した上で、地域住民が利用できるような機能のこと

(6) 3校の歴史と伝統を継承し、地域が学校教育に参画することについて

3校のこれまでの歴史や伝統、教育効果は、再編によって区切りをつけるものではなく、再編後の学校でも大切に継承していきます。

また、開校2年前を目途に設置する「開校に向けた各種委員会」には、保護者および地域の皆様にも委員としてご参加いただき、地域のアイデンティティをどのように再編校に宿すかを検討していきます。保護者や地域の皆様は新しい学校を共につくる共同体（スクール・コミュニティ）として、ぜひ一緒に未来の学校づくりにご協力をお願いいたします。

(7) 放課後児童クラブの設置について ※ 担当部局 こども未来部

放課後児童クラブの設置については、教育委員会と市長部局の子育て支援担当とが連携し、再編された学校敷地内に集約して整備する方向で検討します。

また、放課後児童クラブを1カ所に再編した場合、希望者全員を受け入れられないのではないか、待機扱いになるのではないかなどという声もあるため、希望者全員が利用できるような方向で施設整備や運営面を検討します。

4 今後のスケジュール案

年度	先導的な学びを推進する学校	多様な学びを実現する学校
およそ5～6年間	施設準備検討委員会（仮称）の開催 施設基本設計 施設実施設計 学校施設の建設工事 開校に向けた各種委員会 開 校	施設準備検討委員会（仮称）の開催 施設基本設計 施設実施設計 学校施設の改修工事 開校に向けた各種委員会 開 校

「先導的な学びを推進する学校」の施設や機能等を検討するため、施設準備検討委員会（仮称）を設置します。施設の基本設計及び実施設計に約3年程度、建設工事期間として約2年程度を想定し、建設工事と並行して開校前の約2年間で開校に向けた各種委員会を開催します。開校に向けた各種委員会では、新設校の校名や校章、校歌、制服、教育課程等を検討します。また、開校に向けた各種委員会の構成メンバーとして、地域代表や保護者代表の皆様にも参加していただく予定です。

なお、「多様な学びを実現する学校」は、児童生徒が登校したくなるような学校施設に改修します。安心して交流できるプレイゾーン、他者の視線を考慮した構造の落ち着いた学習スペース等、子ども自身が自分の居場所を実感できる教育環境を整備します。